

家を待つ人々があなたの力を必要としています スリランカで紛争避難民の再定住を支援

Habitat for Humanity Japan

26年におよぶ民族紛争は多くの人から住まいと故郷を奪った

スリランカ民主社会主義共和国は、シンハラ人(74%)やタミル人(18%)、スリランカ・ムーア人など約200万人が住む多民族国家。100年以上に及ぶ英国支配の後、スリランカは1948年に英連邦自治領「セイロン」として独立。それまで社会的に虐げられてきたシンハラ人の利益を尊重する政治姿勢が打ち出され、タミル人はこれに猛反発した。このとき結成された後に「タミル・イーラム解放の虎」(LTTE)となる過激派組織と政府軍との衝突は、1983年を境に全面的な戦闘状態に入る。その後、2009年の内戦終結にいたるまで、26年間で7万人以上が犠牲となった。内戦により、住民は避難民キャンプでの生活を余儀なくされた。終結後、30万人とも言われるこの国内避難民の再定住が最大の課題となっている。

紛争後支援に長く関わってくれるCCを募集しています

スリランカ バティカロアGV

- 紛争避難民の再定住支援
- ボランティアの重要性
- 3000軒建築への貢献

私たちは、避難民の故郷への帰還や再定住を、住居建築を通じて支援しています。

ハビタット・ジャパンでは、2011～12年に、紛争の激戦の舞台であったスリランカ北部のマナー県で住居建築(101世帯)を実施。また、トイレの設置(241基)と井戸の支援(38基)を通じて、避難民の暮らしと衛生環境の向上を図りました。

今回GVを実施する東部のバティカロア県では、避難民の再定住のために3,000軒の家を建てる事業がはじまっています。これには多くのボランティアの力がが必要です。

このバティカロア県は、ハビタット・ジャパンが2011年の洪水のあと、被災した235世帯のために住居修繕キットを配布し支援を行った場所でもあります。

なお、マナー県で2年間にわたり事業を行った経緯から、2015年春には、今回の東部バティカロア県と共に、そのマナー県でもGVをスタートし、日本からボランティアに参加してほしいと考えています。

20年以上も紛争が行われていた地ですから、コミュニティの再建には時間がかかります。ハビタット・ジャパンとしても長く支援していきたいと考えており、一緒にそれを実現してくれるCCを探しています。

このことから、今回バティカロアGVに参加するCCには、来春、現地でマナーGVへの受入れ準備が実現した際に、優先的に参加を認める方向で検討しています。



待たれる3000軒の建築。ボランティアの力が求められています！

今夏のGVは、バティカロア県における紛争避難民再定住のための活動。大規模な事業であるため、通常のGVより多くの活動が発生します。基礎作り、壁作り、床のコンクリート作業、左官作業などを予定。新築の建築作業の他、修繕作業に加わったり、複数の班に分かれて活動する場合があります。また、家によってホームパートナーが作業に参加する場合があります。

※受け入れ可能チーム数：10チームまで

*参加費：ユース38,000円/人、一般50,000円/人

*アクセス：バンダラナイケ(コロンボ)国際空港からバスで7時間

*宿泊：ゲストハウスまたはホテル宿泊

*R&R：孤児院の訪問、世界遺産ポロンナルワやキャンディ仏歯寺、サファリ体験、ビーチなど

